在外教育施設派遣教員　帰国報告レポート

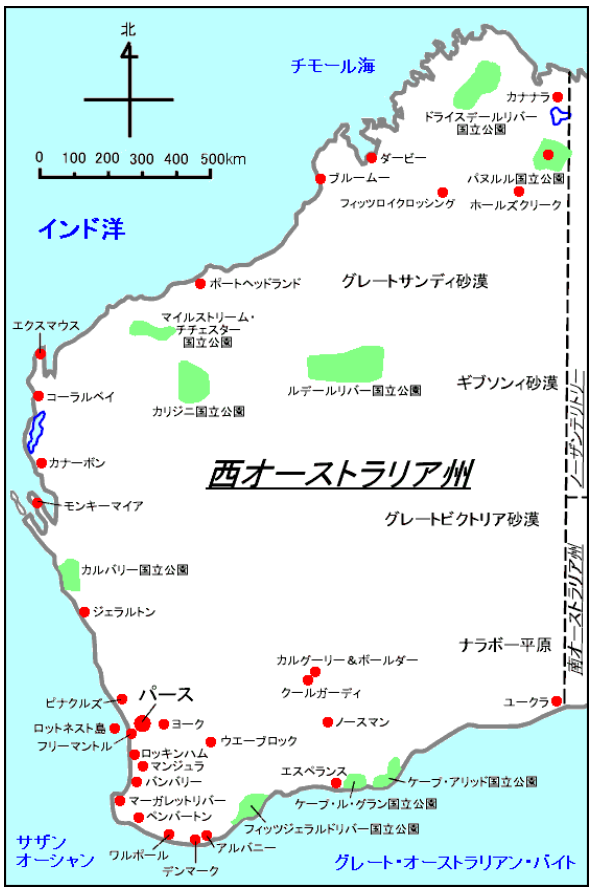
サザンクロスのように輝いて

オーストラリア　パース日本人学校

Japanese School in Perth ＝ 略称JSP

2007～2009 年度派遣

千歳市立信濃小学校
中　村　信　義



1，派遣国・地域の概要

パースは、西オーストラリア州の州都で、このくらい大きい街の中では、世界で一番孤立していると言われている。東の方には、南オーストラリア州の州都アデレードがあるが、2，200㎞も離れている。また、北の大きな街といえばシンガポールで、西にはインド洋が広がっている。

正式なパース市は、CITY OF PERTH と呼ばれる所で、面積が61．19平方キロメートル、人口がおよそ8万人にしかすぎない。しかし、「パースの人口は、およそ 120万人」といわれるように、普通、パースの街と呼ばれるのは26の市（CITY）を合わせたメトロポリタン地域と呼ばれるところを指す。これは、南北およそ100㎞、東西およそ50㎞で、面積が5，369平方キロメートルという広さである。

パースは、南緯32度に位置し、赤道をへだてて緯度がほぼ同じ鹿児島市と1974年から姉妹都市の関係にある。南半球にあるオーストラリアでは、季節が日本と反対で、一番暑いのは1月か2月頃でる。夏のパースの平均気温は、24度くらいで、冬の平均気温は13度くらいである。夏には、最高気温が30℃を越える日が何日もあるが、湿気が少なく乾燥しているので、日本のような蒸し暑さはあまり感じない。時には最高気温が40℃を越え、夜になってもあまり気温が下がらず、寝苦しい日もまれにある。

パースの一年間の降水量は、およそ870㎜で、鹿児島市の、2，400㎜に比べるとずいぶんと少ない。また、夏にはあまり雨が降らず、冬によく降る。この雨は、日本のように一日中降り続くというようなものはなく、降り出したかと思っていると、何分かすればやんでしまう。晴れ間がのぞいて、しばらくすると、また降り出すというようなことが多く、普通「シャワー」と呼ばれている。 朝方や夕刻は、日光の差し方により、見事なまでの大きな虹が架かり、二重に架かる虹も頻繁に見られる。

パースの中心にはスワン川が流れ、その北側にはビルが立ち並び、役所や官庁が多く、いろいろな会社の営業所などがある。日本国総領事館もこの通り（セントジョージステラス）にある。マレーストリートやヘイストリートには、デパートやいろいろのお店が集まり、パース駅の北側には、レストランなどのお店がたくさんある。また開拓時代に、囚人の働きなどによって建てられた時計台のあるパース・タウンホールをはじめ、古い建物も多く残っている。

パースには、あちこちに広い公園があります。その中でも中心街の北側、スワン川そばにあるキングスパークはとても有名です。面積405㌶の公園では、いろいろな種類の木や花を見かけることができます。とくに春には、カンガルーポーなどのワイルドフラワーがきれいに咲き乱れます。また公園からスワン川の街の眺めもすばらしく、市民の憩いの場になっています。

２，日本人学校の概要

2010年度，学校創立33年目になるパース日本人学校は，補習校時代を経て，西オーストラリアの地に全日制日本人学校の設立を願う方々の努力によって，1978年に創立した。その後，3度の移転の末，2009年7月に現在の City Beach へ。

1998年（平成10年）から，現地校に合わせて4学期制をとっているが，教育内容はもちろん日本の学習指導要領に基づいて進めており，日本から来てもまったく違和感なく学習できいる。さらに在外教育施設としての，パース日本人学校ならではの特色もある。

その１つ目が，多めの授業時数と少人数によるきめ細かな指導である。パース日本人学校では，学習指導要領に示された年間指導時数に比べ，週あたり2～3時間多めに授業時数を設定している。また多い学年でも児童生徒数10名前後と少人数であるため，それぞれの力や学習の進み具合に応じたプログラムを組み，きめ細かな指導を行うことにより，学習の量と質，その両面から確かな学力の定着を目指している。

2つ目は，英会話教育と現地理解教育である。新学習指導要領本格実施にともない，5・6年生の英語教育が導入されるが，パース日本人学校では，すでに長年にわたって小学部１年生から英会話学習に取り組んでいる。現在では，週5時間の英会話・英語学習を行っている。英会話学習は，ネイテ

ィブの講師と日本人の英語教師が指導に当たり，2～3学年単位で，学年の枠をはずし，児童生徒のレベルに合わせた学習を進めている。また，子どもたちの英語力をはかる目安として，英語検定や児童英語検定を取り入れている。

3つ目は現地校との交流である。Scarborough Primary Schoolとは，19年の長きに渡って，同敷地内で日常的に交流をしてきた。本校が移転して分かれた今でも，運動会を合同で行うなどの交流を続けている。また，今は，International School of WAと同じ敷地にあり，体育館や運動場は共用している。今後，いろいろな形で交流をしていく予定である。

4つ目は縦割り編成の生活班による活動である。清掃やレクリエーションなどの日常活動はもちろん，全校キャンプもこの生活班を中心として実施している。上級生が下級生を指導しながら様々な活動を進める中で，共生の精神や思いやりの心，上級生としての自覚などが培われている。

上記の4点を項目に整理すると，下記の8点があげられる。

（1） スカボロ小学校・インターナショナルスクールとの交流

（2） 英会話・英語習熟度授業

（3） 小規模校のメリットを活かした，個に応じたきめ細やかな学習

（4） 縦割り活動による全校キャンプの実施

（5） 現地の教育的素材を活用した，教育活動の展開

（6） 情報教育の推進

（7） 清掃活動，日本的な行事などを通した日本的慣習の涵養

（8） 児童生徒会活動の充実

年間授業時数は下記のようである。

年間授業時数 （ 1単位時間　小学部:45分　中学部:50分 ）

		小学部						中学部		
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1年	2年	3年
国語		272	280	235	235	180	175	140	105	105
国語＋		**51**	**41**	**65**	**45**	**64**	**63**	**39**	**74**	**72**
国語		**323**	**321**	**300**	**280**	**244**	**238**	**179**	**179**	**177**
社会		－	－	70	85	90	100	114	114	114
算数(数学)		114	155	150	150	150	150	105	105	105
算数(数学)＋		**46**	**44**	**63**	**48**	**32**	**28**	**28**	**30**	**72**
算数(数学)		**160**	**199**	**213**	**198**	**182**	**178**	**133**	**135**	**177**
理科		－	－	70	90	95	95	105	105	80
生活		105	105	－	－	－	－	－	－	－
音楽		70	70	60	60	50	50	45	35	35
図工(美術)		70	70	60	60	50	50	45	35	35
家庭(技家)		－	－	－	－	60	60	70	70	35
体育(保体)		90	90	90	90	90	90	90	90	90
外国語		－	－	－	－	－	－	114	114	114
道徳		34	35	35	35	35	35	34	35	35
特活		34	35	35	35	35	35	34	35	35
選択教科(英会話)		－	－	－	－	－	－	**30**	**50**	**144**
総合	課題解決	－	－	70	70	75	75	40	40	80
	英会話	－	－	**35**	**35**	**35**	**35**	**35**	**35**	－
英会話		**151**	**154**	**113**	**113**	**110**	**110**	**79**	**59**	**－**
標準時数		782	840	910	945	945	945	980	980	980
本校時数		**1037**	**1079**	**1151**	**1151**	**1151**	**1151**	**1149**	**1151**	**1151**
児童生徒会		23	23	34	34	34	34	34	34	34
学校行事		41	43	43	43	43	43	41	43	43
小計		64	66	77	77	77	77	75	77	77
総授業時数		1101	1145	1228	1128	1128	1128	1124	1128	1128

本校が、学習指導要領よりも多くとっている授業時数。

本校が英会話にあてている授業時数。

児童生徒数の現状

学　年	在籍数（男女数）
小 1	12 名（男子4名　女子8名）
小 2	11 名（男子5名　女子6名）
小 3	10 名（男子6名　女子4名）
小 4	4 名（男子3名　女子1名）
小 5	1 名（男子1名　女子0名）
小 6	2 名（男子2名　女子0名）
（小学部合計）	**40 名（男子21名　女子19名）**
中 1	1 名（男子1名　女子0名）
中 2	0 名
中 3	0 名
（中学部合計）	**1 名（男子1名　女子0名）**
総 合 計	**41 名（男子22名　女子19名）**

2010.　9. 29　現在

3，実践例

第3･4学年　スカボロ小 Year3，4＆5との交流（2）

（1）日時　　2008年　10月22日（水）3校時（10:40～11:25）
　　2008年　10月23日（水）3校時（10:40～11:25）

（2）本校参加者　小学部第3学年（6名）　指導者　中村信義
　　小学部第4学年（3名）　指導者　須田誠

（3）交流相手校　スカボロ小学校　Year3（25名）　指導者　Ms.Bond
　　Year4＆5（25名）　指導者　Ms.Searle

（4）交流内容　　はり絵「調和」

文化祭スローガン「JSPの笑顔と団結　伝えよう和の心」の「和」をテーマに，SPSの子どもたちとはり絵に挑戦した。イメージが重なってしまうと同じような作品になってしまうので，各学年にさらにテーマを絞り込んでお題を割り当てた。3･4年生のお題は「調和」だった。日豪の「調和」を意識し，アボリジナルアートの点描を施した額の中を，はり絵の錦鯉が泳ぐ作品を企

画した。SPSとの交流では，はり絵の周りの額となるアボリジナルアートをモチーフにしたドットペインティング（点描画）に挑戦した。

(5) 交流の様子

最初に，ドットペインティングされた記号の意味を考えるクイズを行った。そのものを形取った記号が多かったので，3年生でもわかりやすく，みんな積極的に手を挙げて答えようとしていた。（教師主導で，JSPの児童もクイズに参加した。）

ドットペインティングは同じ規格の色上質紙に，学んだ記号やオリジナルの記号を組み合わせて自分なりの意味をもたせたストーリーやメッセージを入れて表現するよう指導した。パターン化した記号を繰り返し使って模様を表したり，また，あらかじめ使える色はアースカラーのペンが4色（白・黒・黄・茶）と限られていたので，色に特別な意味をもたせるよう工夫を凝らすなど，様々な表現方法を目の当たりにし，子どもたちの想像力の豊かさに驚かされた。

錦鯉のはり絵と最後の仕上げは，JSPの教室に持ち帰って行った。はり絵は，錦鯉が右から左に泳ぐ途中，アースカラーの錦鯉に変わる作品に仕上がった。

QuickTimeý Ç²
TIFF (LZW) êLíéÈvÊçÉOÉâÉÄ
Ç™Ç±ÇÃÉsÉNÉ¯ÉEÇ¾å©ÇÉÇžÇ½Ç…ÇÕIKóvÇ-ÇÂB

(6) 考察

相手と自分，互いの文化の良さを尊重する中，調和を目指し，新たな価値を生み出す創造力は，国際社会に生きる子どもたちに，育みたい力の一つである。中学年の総合的な学習の時間では，現地理解教育を切り口に，オーストラリアの歴史や文化を調べたり，学んだことをまとめたりしてきた。そのような学習の一環として，取り組んだこの共同制作は，子どもたちに前述した創造力を育む素地を築くことができたと考える。

第1学年　スカボロ小 Pr/Year1 との交流
第2学年　スカボロ小 Year2との交流

(1) 日時　　2009年　6月4日（金）3校時（10:40～11:10）
　　2009年　6月8日（金）5校時（13:00～14:00）

(2) 本校参加者　小学部第1学年（9名）　　指導者　中村信義
　　小学部第2学年（10名）　　指導者　山下繁樹

(3) 交流相手校　スカボロ小学校 Pr/Y1 A(23名), Pr/Y1 B(25名), Y2（23名）

(4) 交流内容　「新聞折り紙劇」
　　新聞紙を折り進め，いろいろな帽子に変身する様子を劇にし，披露しました。スカボロ小 Year1 も折り紙を体験しました。

(5) 交流の様子

日本の芸術美の一つである折り紙で何かできないかと考え，今回の企画を思いついた。英

語が達者な子どもたちばかりなので，物語の内容を9（10）人で割り当てて発表した。SPSの子どもたちも物語の変化に沿って，キャプテンハット→消防士ヘルメット→ピーターパンハット→船→ボロボロのTシャツと，変身する新聞のかぶり物などに真剣に見入っていた。

SPSの子どもたちも折り紙に挑戦する場面では，およそSPS2・3人に対してJSP1人のブループを編成し，折り方を教えてあげる体制をとった。JSPのみんなには，「やってあげるのではなく，教えてあげるんだよ。」と言ってまわり，フォローの仕方をアドバイスした。できた帽子をかぶって，おどけてみせる子，お互い見合って笑っている子，最後にはボロボロになったTシャツを着て，なぜだか侍や忍者になりきって遊んでいる子，みんな大喜びではしゃいでいた。SPSの学級担任とアシスタントも，支援が必要な児童へ付き添い，ファシリテーター役のJSPの子どもたちのフォローをしてくれた。また，「Welldone! Little Teacher!」と、子どもたちの活躍をほめてくれた。

（6）考察

自分が上手に折れることはもちろん，どのように折り方を教えるか，イメージしながら練習に励んだ。大方の予想通りことが進みよかった。物語のクライマックスである「嵐の波を正面から乗り越えていく船」を，どんな困難もおそれず正面からぶつかっていく「Brave 勇気」として表現し，子どもたちにその勇気の大切さを訴えた。道徳的な教材としても，十分に活用できる表現活動だと考える。

4，おわりに

オーストラリアの夜空に輝くサザンクロス（南十字星）は，大航海時代には航海士達の座標として輝き，航海への不安を希望へと変えていった。私も「君が居るから安心だ」と思っていただけるよう，職場で無くてはならない存在になりたいと願い，とにかく懸命に働いた。それが私を送り出してくれた方々の思いに報いることと確信していた。あっという間の3年間だったが，何事にも代え難い数多くの経験をさせていただいた。

「報恩感謝」感謝のないところに歓喜はない。苦悩を突き抜かねば本当の意味での歓喜には至らない。これまで以上に精進し，自分らしく輝きたい。サザンクロスのように。